# 「森銑三刈谷の会」だより 36(2024/10/19)

発行 2024/10/19 (月刊・メールでの投稿歓迎) 例会 第3 土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会 共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu\_s@katch.ne.jp

36:2024/9/21(土) 鈴木哲・河橋育実「森銑三(1895-1985)と外山滋比古(1923-2020)」 参加 13 人

## 森銑三と外山滋比古、そして高野鎮雄、小島巌、永 田友市 鈴木哲

森銑三[著](2003)『新編おらんだ正月』岩波文庫解説は外山滋比古(1923-2020)である。『思考の整理学』(1983)で知られる外山は刈谷中学校1941/3 卒である。両者相互に記述ある文献を探索し、年代順に読んだ。

森(1963/3)「夢三題」『ももんが』(著作集続編 15 収) 森(1968/2)「同人誌ももんが」『日本古書通信』(同) 外山(1971)「森さんのことども」『森著作集』月報 10 外山(1986/4)「同郷の縁」『ももんが』森銑三追悼号 外山(2003)「解説」森『新編おらんだ正月』岩波文庫 外山(2015)『三河の風』展望社,「ミスターVHS」p. 53-

外山(1971)は森を高僧と叙し、同(2003)は「『好色一代男』以外はすべて西鶴の作にあらずとのべて、学会に衝撃を与えた」とする。外山刈谷中学校同級の高野鎮雄(1923-92)、小嶋巌(1923-2011)、永田友市(1923-2015)を紹介し、外山(2015)『三河の風』「ミスターVHS」(高野)を読んだ。外山(1986/4)に森の「フクロ主義」がある。野口悠紀雄(1993)『「超」整理法』「押し出しファイリング」(p. 30)は「フクロ主義」の発展である。

### 岩波文庫『新編おらんだ正月』解説:外山滋比古 河橋育実

「おらんだ正月」を読もうと求めたのが、岩波文庫 (2003)『新編おらんだ正月』でした。解説を外山滋比古さんが書いておられました。主人が刈谷高校出身だと教えてくれました。外山さんが銑三さんを尊敬しておられるのは伝わってきました。3月永井荷風の時に、若輩者に親切にしてもらったと銑三さんが感激したことを知りました。8月金子民雄さんでは、銑三さんに親切にしてもらったとしておられます。良い繋がりを感じます。銑三さんのお人柄なのでしょう。

#### 刈谷中学校第18回生と外山(2015)『三河の風』

#### 飯田芳子

「森銑三と外山滋比古」は「金子民雄への書簡」と趣を 異にしますが、郷土に根差していて感銘を受けました。 外山(1986/2)「同郷の縁」で吉良義央びいきの質問に、 銃三は知らないと応じたという部分、山本博文(東大史 料編纂所教授,2020年没)に「江戸御留守居役の日記」 寛永期の萩藩邸があります。山本は優れた留守居役が浅 野家にいれば松の廊下のような刃傷沙汰は起きなかった としています。別紙「刈谷中学校第 18 回生」と外山 (2015)『三河の風』は秀逸でした。

#### 何処かで繋がることに驚きます

#### 神谷明子

森銑三の会での情報が多岐に亘り、何処かで繋がることに驚きます。高野さん、外山さんも歴史にしっかり足跡を残されました。繋がりを資料でお知らせくださった鈴木さんと河橋さんに拍手です。ファイル袋(ファイル)は私も現役の時は持っていました。後から見ると自分の思考や、趣味の参考になり楽しんでいました。

#### 同人雑誌『ももんが』を介しての交流

#### 神谷磨利子

森銑三の『ももんが』(1957年~、主宰・田中隆尚)との出会いについては第17回(2023/1/21)で『ももんが』(1976/12)「寒い雨の降る日」を紹介した。森「同人雑誌ももんが」を読むと若い同人たちに敬意を示し「驥尾に付し…少しでもよいものを書きたい」と言っているところは森らしい。外山の文章には、近づき難い存在と思っていた28歳年長の森の温かい人柄が描かれていた。若い人への姿勢は金子民雄の場合と同様である。

#### 「神は細部に宿る」森銑三刈谷の会

#### 子安重晃

神は細部に宿る、と言うように皆様が切磋琢磨しておられます。私も初心に返り、単語から勉強しております。 <紙面都合によりご投稿文面を一部編集しました:哲>

#### 2024/10-12 予定

37:2024/10/19(土) 村瀬典章「刈谷図書館と村上文庫展 2」

〈関連行事〉 2024/11/23(土) 13:30-刈谷市郷土文化研究 会文化講演会 塩村耕「村上忠順、岩瀬弥助、 森銑三」

38:2024/12/21 (土) 鈴木哲「森銑三の西鶴『一代男』 一作説と暉峻康隆(1905-2001)」

39:2025/1/18(土) 竹中良枝・神谷明子・神谷美恵子 「『武玉川選釈』」を読む」